

■ コメント

1. 腸管出血性大腸菌感染症

7件報告され、今年の累計は10件となっています。5月31日以降に報告された8件は、すべて同一家族または同一施設内の感染です。腸管出血性大腸菌は、熱には弱いですが、感染力が強くわずかな数個でも感染すると考えられていますので、手洗いの励行に心がけるとともに、生肉などの食品の取扱いには十分注意する必要があります。

2. 百日咳

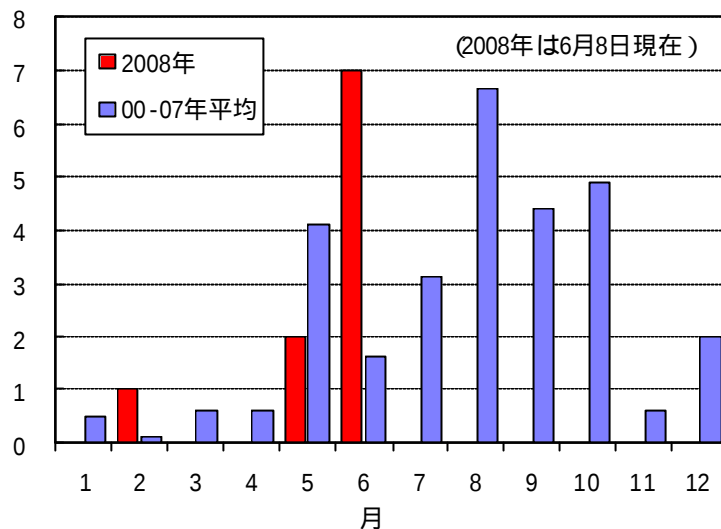
16人(定点当たり0.67人)報告されており、例年同時期と比べてかなり多い状態が続いています。患者の年齢層別内訳は、20歳以上が9人、10～19歳が4人、0～9歳が3人となっています。

3. ヘルパンギーナ

定点当たり1.50人と急増しています。流行期に入っただと考えられ、今後の動向に注意してください。中区では5.7人となっています。

(件/月)

腸管出血性大腸菌感染症の月別報告数



■ 5類感染症報告状況 (定点把握対象分)

疾患名	報告数	定点当り	平均過去5年(注1)	発生記号	疾患名	報告数	定点当り	平均過去5年(注1)	発生記号
インフルエンザ(注2)	1	0.03	0.10		ヘルパンギーナ	36	1.50	0.95	↑
咽頭結膜熱	19	0.79	0.61	↑	流行性耳下腺炎	4	0.17	1.43	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	72	3.00	1.78	↔	RSウイルス感染症	1	0.04	-	
感染性胃腸炎	125	5.21	5.76	↔	急性出血性結膜炎	2	0.25	0.05	
水痘	71	2.96	2.38	↔	流行性角結膜炎	5	0.63	0.85	
手足口病	47	1.96	2.96	↔	細菌性髄膜炎	-	-	0.11	
伝染性紅斑	18	0.75	0.65	↗	無菌性髄膜炎	-	-	0.34	
突発性発疹	23	0.96	0.92		マイコプラズマ肺炎	2	0.29	0.40	
百日咳	16	0.67	0.02	↔	クラミジア肺炎(注3)	-	-	-	

急増減 ↑ ↓ 前週と比較しておおむね1.2以上の増減

増減 ↗ ↘ 前週と比較しておおむね1.1.5～2の増減

微増減 ↖ ↙ 前週と比較しておおむね1.1.1～1.5の増減

横ばい ↔ ほとんど増減なし

報告数が少ないなど、傾向の判断が不適切と思われるものについては、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注1)過去5年間(RSウイルス感染症は4年間)の同時期平均(定点当り)
(注2)鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く
(注3)オウム病を除く

■ 1類～5類感染症報告状況 (全数把握対象分)

類型	疾患名	報告数	累積	備考
2	結核	4	86	女性(20歳代)1人、女性(50歳代)1人、男性(60歳代)2人
3	腸管出血性大腸菌感染症	7	10	男性(10歳未満)1人、男性(10歳未満)1人、男性(10歳未満)1人、女性(20歳代)1人、男性(30歳代)1人、女性(50歳代)1人、すべてO157

■ 5類感染症報告状況の推移 (定点把握対象分)

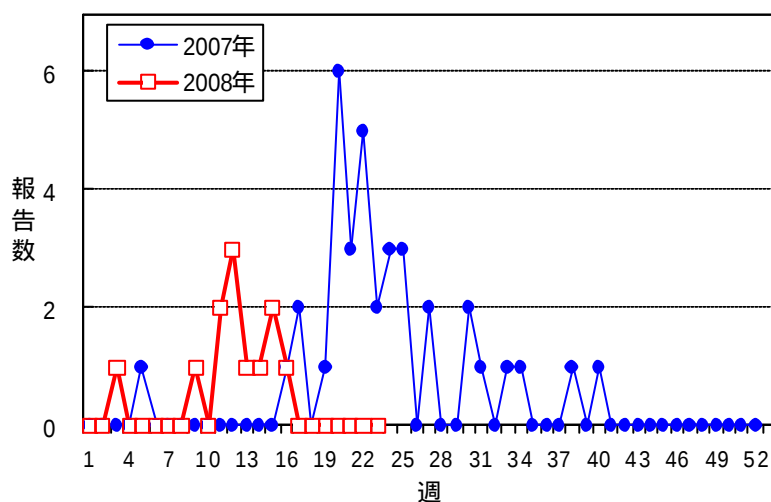
報告数	広島市	第19週 第20週 第21週 第22週 第23週	インフル エンザ (注1)	咽頭結膜熱 球菌咽頭炎	A群溶血性レンサ 菌	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発疹	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	RSウイルス 感染症	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ 肺炎	クラミジア肺炎 (注2)
報告数	広島市	第19週	4	20	59	113	48	23	5	9	16	-	2	1	-	4	-	-	5	-
		第20週	4	10	83	154	41	35	11	21	16	3	-	2	-	3	-	-	3	-
		第21週	1	11	87	170	67	20	15	22	14	9	3	1	-	6	-	1	4	-
		第22週	1	8	81	162	56	39	10	24	13	7	1	-	-	6	1	1	2	-
		第23週	1	19	72	125	71	47	18	23	16	36	4	1	2	5	-	-	2	-
定点 当り	広島市	第19週	0.11	0.83	2.46	4.71	2.00	0.96	0.21	0.38	0.67	-	0.08	0.04	-	0.50	-	-	0.71	-
		第20週	0.11	0.42	3.46	6.42	1.71	1.46	0.46	0.88	0.67	0.13	-	0.08	-	0.38	-	-	0.43	-
		第21週	0.03	0.46	3.63	7.08	2.79	0.83	0.63	0.92	0.58	0.38	0.13	0.04	-	0.75	-	0.14	0.57	-
		第22週	0.03	0.33	3.38	6.75	2.33	1.63	0.42	1.00	0.54	0.29	0.04	-	-	0.75	0.14	0.14	0.29	-
		第23週	0.03	0.79	3.00	5.21	2.96	1.96	0.75	0.96	0.67	1.50	0.17	0.04	0.25	0.63	-	-	0.29	-
	全国	第21週	0.21	0.58	3.02	7.02	1.89	0.70	0.20	0.72	0.11	0.37	0.43	0.05	0.04	0.79	0.02	0.04	0.39	0.03
		第22週	0.14	0.69	2.83	6.26	2.42	0.85	0.17	0.74	0.11	0.53	0.43	0.04	0.02	0.72	0.01	0.04	0.39	0.02

(注1)鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く (注2)オウム病を除く

■ 新たに判明した病原体検査結果

診断名	患者 年齢	性別	発症 年月日	検査材料	検出病原体
咽頭結膜熱	1	男	2008/04/13	咽頭拭い液	ライノウイルス
気管支炎	1	男	2008/04/15	咽頭拭い液	ライノウイルス
急性肺炎	9	男	2008/04/23	咽頭拭い液	ライノウイルス

【参考】広島市における麻疹発生動向の2008年と2007年の比較



(注)できるだけ条件を同一にするため、2008年の基幹定点のデータから15歳未満の患者を除いています。

麻疹は2008年1月1日より、定点調査から全数調査に変更されました。

このため、2007年と単純に比較できませんが、2008年の報告のうち、定点医療機関(小児科 定点24か所及び基幹定点7か所)からの報告を抽出し、2007年のデータと比較しました。

2007年は5月の連休後に急増し、6月にかけて多くなりましたが、その後減少傾向となり、10月には終息しました。

2008年は3月から4月にかけて多くなりましたが、現時点では昨年のような連休後の増加はみられていません。しかし、たとえばスポーツの試合や修学旅行などの集団行事で麻疹患者と接した場合、麻疹の集団発生を引き起こす可能性もあり、引き続き注意が必要です。

予防接種が最も有効な予防方法です。

本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。なお、感染症情報の詳細についてはホームページをご覧ください。

URL <http://www.city.hiroshima.jp/shakai/eiken/center.html>

【問い合わせ先】

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号
TEL(082)277-6575 FAX(082)277-5666 E-Mail ei-seikatsu@city.hiroshima.jp

2008年第23週 (6月2日～6月8日)